

添付資料

新規利水量の変更（豊川水系水資源開発基本計画 / フルプラン）

単位 $\text{m}^3 / \text{秒}$

目標年度	新規需要見通し		供給目標	
	水道用水	農業用水	水道用水	農業用水
旧 2000	2.3	3.1	1.5 0.8	1.5 豊総 0.3 設楽ダム
新 2015	0.737	0.339	0.179	0.339

注1 新フルプランは、2006年2月の閣議決定。

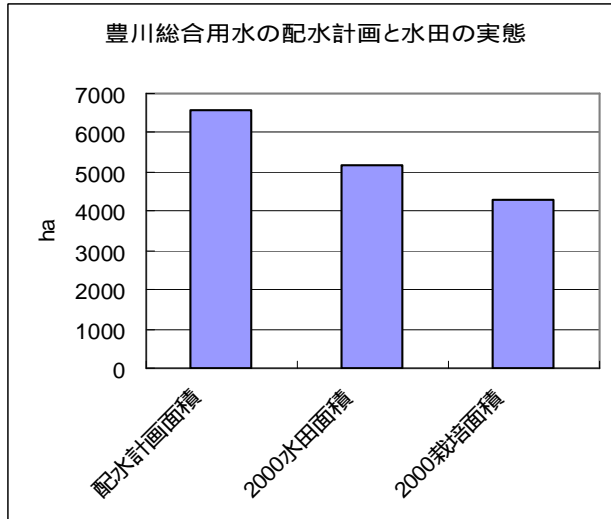
注2 新フルプラン見直し時の10年後の需要見通しでは、水道用水は水余りであり、根拠のはっきりしない農水新規需要を加えても、全体として水は約 $0.4 \text{ m}^3 / \text{秒}$ 余っている。20年に2番目の深刻な渇水を想定して、その際に安定供給をできるようにという理由で $0.179 \text{ m}^3 / \text{秒}$ の水道用水供給目標が掲げられた。

注3 設楽ダムの新規利水目標は、アセス手続きの方法書段階では旧フルプランに基づいて水道 0.8 、農水 0.3 の合計 $1.1 \text{ m}^3 / \text{秒}$ であったものが、準備書においては新フルプランに基づいて水道 0.179 、農水 0.339 の合計、約 $0.5 \text{ m}^3 / \text{秒}$ に変更された。

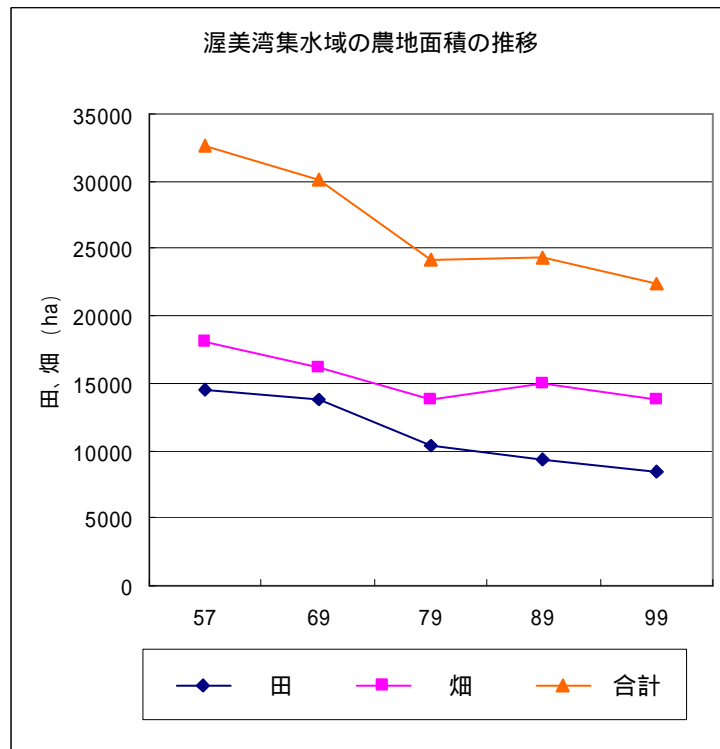
注4 特定多目的ダム法が掲げる建設目的には治水や農業用水は入っていない。発電や工業用水は設楽ダムでは計画されていないので、水道用水のみがこのダムの法律的なよりどころとなる。この水道用水の新規開発水量が $0.8 \text{ m}^3 / \text{秒}$ から $0.179 \text{ m}^3 / \text{秒}$ へ、4分の1以下に縮小されたにもかかわらず、ダム建設事業の見直し・アセス手続きのやり直しがなされていないことには大きな疑問が残る。

添付資料

豊川総合用水事業と東三河の水需給



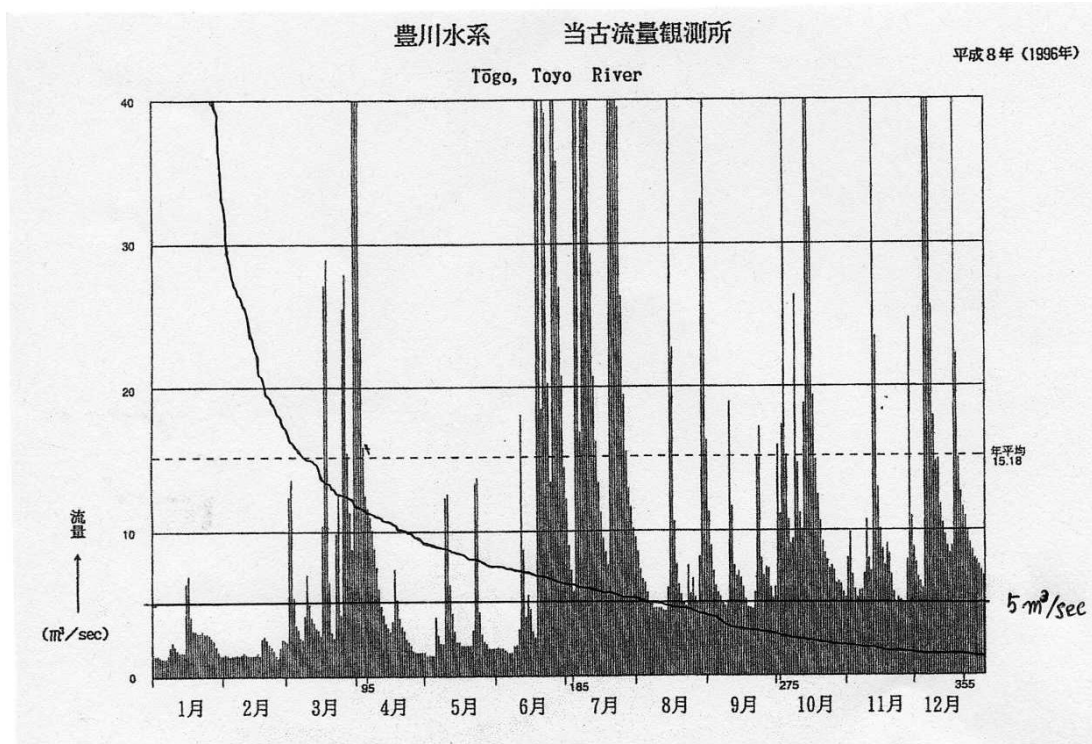
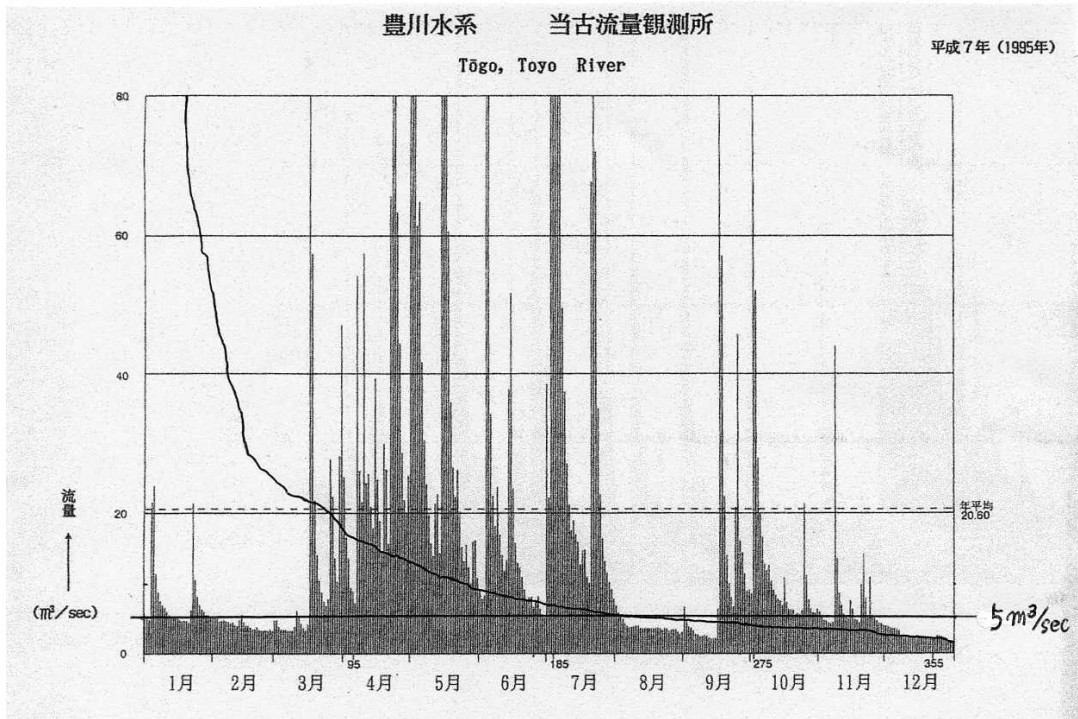
総合用水事業が計画した配水予定水田面積を、実際の栽培面積は大きく下まわっている。畑を含めた全体の農地面積の推移をみても、今後農地面積が増える傾向はみられない。



添付資料 略
添付資料 略

添付資料 渇水年の豊川（当古地点）のハイドログラフ

（流量年表より）



少雨年'95年・'96年の牟呂・松原堰下流の当古地点流量から見るかぎり、ほぼ2ヶ月間毎秒 2m^3 流量増をすれば、毎秒 5m^3 の暖候期の維持流量を確保できる。必要な水量は、年間約 $1040\text{万}\text{m}^3$ 。冬季の維持流量を毎秒 5m^3 まで増やす必要はないと考えられる

添付資料 三河湾（渥美湾）奥部の貧酸素状況と豊川当古流量の関係 （市野 2006）

図1 観測日前3日間の豊川流量と三河港域の貧酸素度

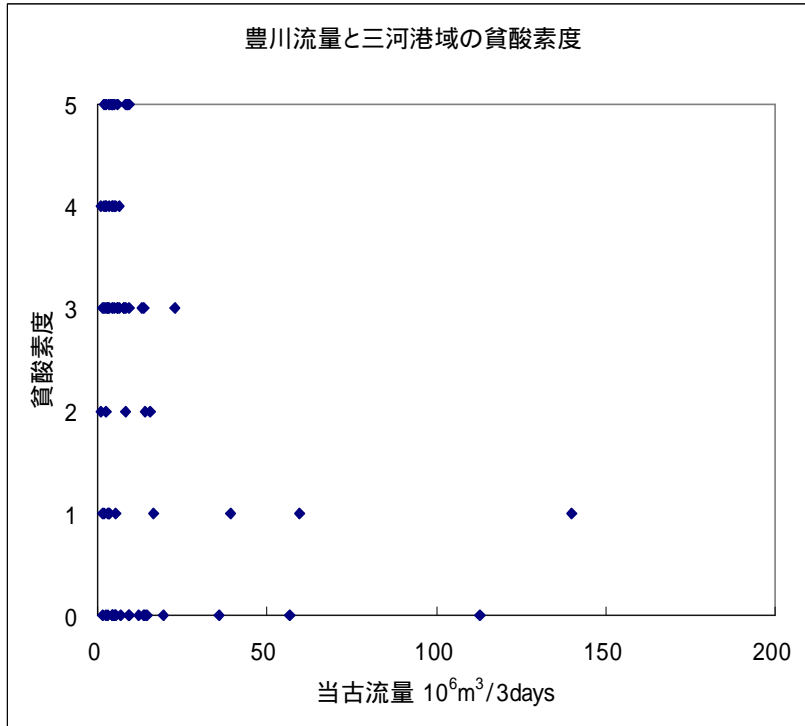
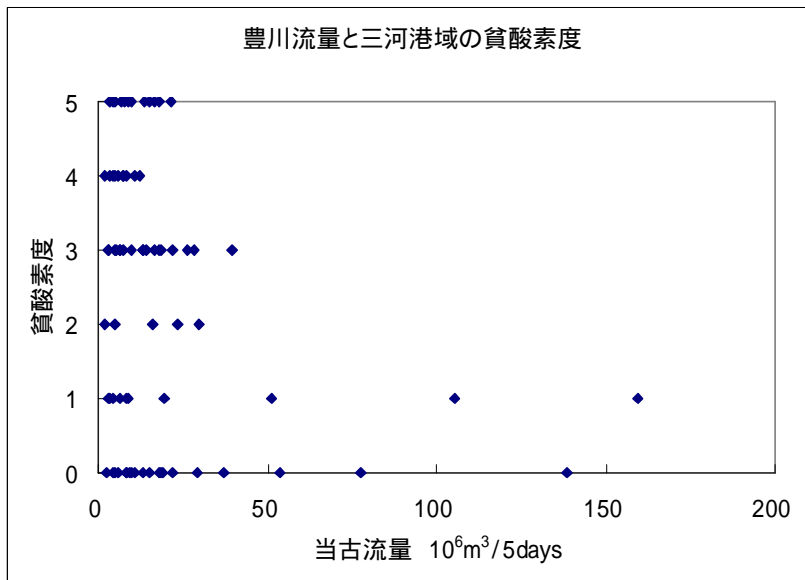


図2 観測日前5日間の豊川流量と三河港域の貧酸素度



豊川の流量の大きい時には渥美奥の貧酸素水塊は発達していない。河口から流入する豊川の水が渥美湾の海水交換を促進していることによると考えられる。川からの過剰な取水は、海（とりわけ閉鎖性の強い三河湾）の環境まで影響が及ぶ。